

ボディ皮膚生理に関する研究 — 皮膚表面形態について —
実践女大家政 ○加藤佐枝子 山崎和彦 飯塚幸子

＜目的＞ 皮膚は体の最外層に位置し、身体の保護や体内の環境を一定に調節する。顔面皮膚については以前から高い関心がよせられているが全身についてはあまり知られていない。本研究では全身の皮膚生理及び皮下脂肪厚を測定し、それらの関連性を考察することを試みた。今回は表面形態のパターン分類について報告する。

＜方法＞ 実験は1992年9～10月及び1993年9～10月に行った。健常成人男性の若年群21名（20～26歳）・中年群16名（40～49歳）と、女性の若年群21名（20～24歳）・中年群20名（40～48歳）を被験者とした。測定部位は1頬部 2胸部 4腹部 5手背部 6大腿前部 7下腿前部 8後頸部 9背部 10上腕部 11脇腹後部 12臀部の計11点である。皮膚表面形態の観察にはレプリカ法を用い、皮丘と皮溝をもとに7パターン（Ⅰ. 縞-細 Ⅱ. 縞-中間 Ⅲ. 縞-粗 Ⅳ. 格子-細 Ⅴ. 格子-中間 Ⅵ. 格子-粗 Ⅶ. 凹凸）に分類した。

＜結果＞ 7パターンの内、頬部はⅦ型、手背部はⅥ型に多くみられた。下腿前部・脇腹後部は縞型、背部・臀部は格子型の傾向であった。